

Therapeutic drug monitoring guides the management of patients with chronic non-infectious uveitis treated with adalimumab: a retrospective study

Lucas Sejournet, Sebastien Kerever, Thibaud Mathis, Laurent Kodjikian, Yvan Jamilloux, Pascal Seve

Br J Ophthalmol. 2022 Oct;106(10):1380-1386. doi: 10.1136/bjophthalmol-2021-319072.

アダリブマブ（ADA）によって治療されている慢性非感染性ぶどう膜炎における治療薬モニタリング（TDM）の有用性を検討した論文です。TDMとは治療効果や副作用に関する様々な因子をモニタリングしながらそれぞれの患者に個別化した薬物投与を行うことを意味します。多くの場合、血中濃度が測定され、臨床所見と対比しながら投与計画が立てられることがTDMのメリットとなります。対象は血清ADA値およびADAに対する抗体（AAA）を測定した患者で、ADAに反応がみられた症例では非反応群に比べ血清ADA値が高値であり、ADA非反応群の約20%程度にAAAがみられました。これらの結果に基づき注射回数、投与量、治療の切り替え、局所療法追加、または経口ステロイド薬が調整され、ADA非反応群の87%で炎症が改善し、ADA反応群の約半数が注射回数の減少が可能であったと報告されています。今後、様々な生物製剤が治療の選択肢として増えていく中、症例によって治療を変えていくオーダーメイド医療の可能性を報告している重要な報告だと思います。（担当者： 東京医科大学 坪田 欣也）